

ヒキガエルのための 宝満山登山ガイドブック 第2版



(付録) ヒキガエルから学ぶ登山者(人)の登山技術

2021

宝満山ヒキガエルを守る会

子ヒキガエルの登山マップ



このガイドブックは、宝満山山頂を目指そうとする子ガエルのためのガイドブックです。ガイドブックに従って登山しなければ、山頂に達することはできないので、注意深く読んで下さい。

5月末頃、オタマジャクシから変態してカエルになり、登り始めるが山頂まで登ることができるのは超ガエルの体力・気力を持つ、優秀な登山者です。変態した十万～百万匹のカエルのうち山頂まで登れるのは千匹くらいだろうと言われていました。

宝満山とは

宝満宮竈門神社のホームページによると

九州で最も登山者が多いといわれている宝満山は、古の時代より神が降り立つ山として崇められてきました。平成25年10月、宝満山はわが国の歴史上においても大変重要な国家的祭祀が継承されてきた信仰の山「霊山」として、その歴史的・文化的価値が認められ、鳥海山、富士山に次ぐ、全国3例目の国史跡に指定されました。

(http://kamadojinja.or.jp/mt_houmanzan/)

「宝満山に登れるようであれば九州の山々はさほど困難ではないと言われるくらい、意外に急峻な山」と言われている」。

出典：マイカーで行く九州の100山峰 渡辺智俱人著 葦書房発行
1986年、24頁

注：このガイドブックでは、主語がヒキガエルの場合は主語を省いていますが、親ガエル、子ガエルと使い分けもしています。「人」は登山者（人間）を意味します。

カエルの本籍

カエルが生まれた池（本籍）は二つある。

登山道の標高が低い方の池は通称「下の野々道（ののみち）池」で江戸時代に造成と言われています。野道（ののみち）池と呼ばれることもあります。地元では本谷池と呼ばれています。上の方にある池は通称「上の野之道（ののみち）池」で明治42年に造成されました。

（注：池の名称及び築造年については、宝満山研究会の小西信二氏からの私信によっています。上の野之道池の正式名称は「南谷耕地整理溜池」です。）

ここでは簡単に下の池、上の池と呼ぶことにする。

登山データ

歩行時間 登り平均40日

歩行距離 約2.3~2.5km(TS:196~213km)

最高地点の標高 829m

高低差 約600m(下の池から山頂まで)



注:

ヒキガエルは子どもの時は昼行動し、夜は動きません。親になると夜に動くようであり、人間と時間のスケールは同じと思われる。ちなみに、人の心臓は1分間に60~70回打つが、ヒキガエルは45~60回くらいらしいので、大体同じ程度でしょう。

一方空間のスケールは随分違います。子ガエルの体長はせいぜい2cmであり、人間の平均的な身長170cmとすると、空間のスケールは異なります。距離2kmはヒキガエルのスケール(TS:Toad Scale)では170km、高低差600mは5万1000m、標高829mは7万465mである。ちなみにエベレストの標高は8848m)

(注:カエルの英語はFrogですが、ヒキガエルの英語はToadです。)

登山コース

下の池、上の池から山頂に至るコースはいくつもあるが、正面道を登るのが最も確実に山頂に至ることができるので、ここでは正面道について述べる。

正面道には、登拝者や登山者の足跡によって、私たちにわかる「匂いの道」が作られているので、それを頼りに登って行けば良い。

(注:ヒキガエルは匂いの道をたどっているとの研究に基づいている)

注意すべきこと

昆虫、ミミズなどの食べ物は現地で調達できますが、水分不足には気をつけて下さい。

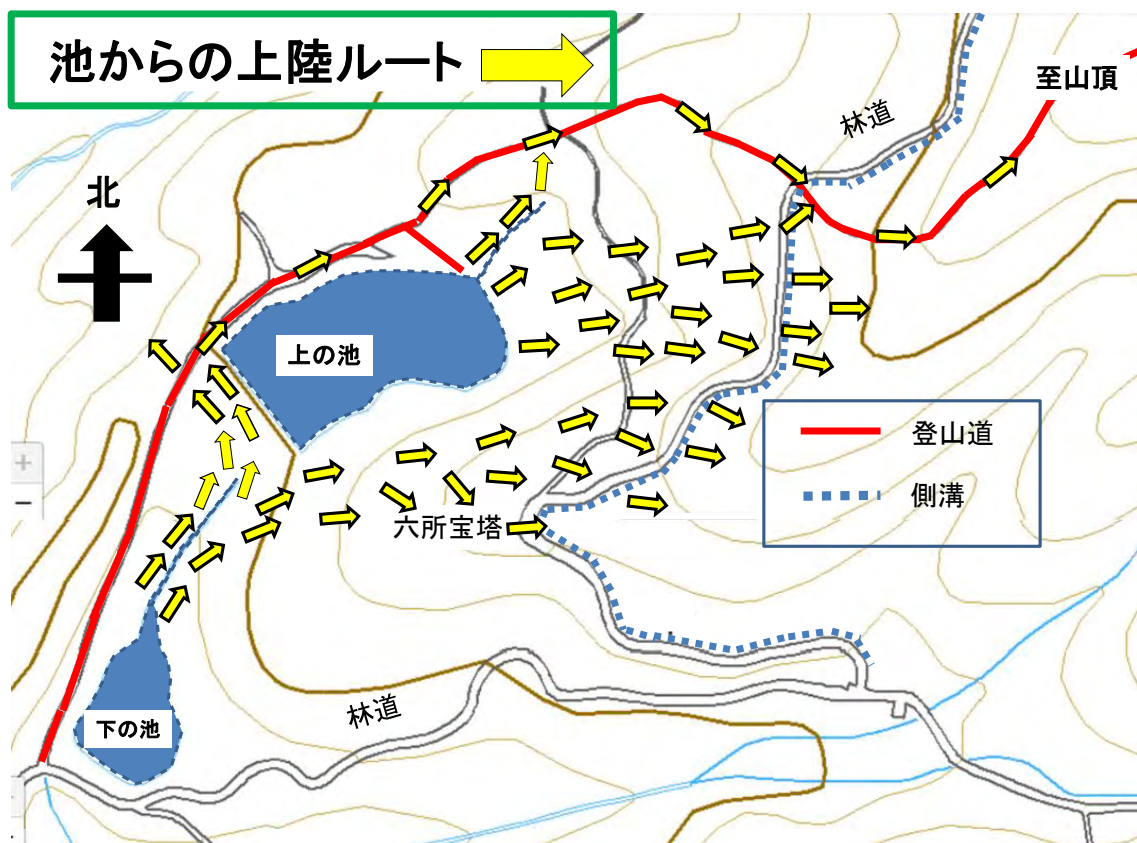
人にとっては「良い天気」は雨が降らずに、さわやかな青空のような天気ですが、私たちカエルにとっては「悪い天気」です。2、3日雨が降らずに湿度が低いときは乾燥によって死亡することもあるので、そのような場合は落葉の下、草むらや斜面の小さな穴など湿度が高い場所に避難し、雨が降るのを待つこと。もっとも土砂降りの雨の場合は、登山道の数cmの幅の水の流れでも流されるので、渡渉には気をつけること。

登山者(人)が例え、「子ガエルの登山を見に来たのに、今日は いないなあー」と言っても、無理して姿を見せて登らないようにー。生死に関わります。

登山道の各ポイントについて

上陸地点

池からの上陸地点は両方の池とも、溪流からの流入口付近すなわち池の北ないし北東部である。



2合目

池から2合目付近までは大きな群れとなって登っているので人に踏まれることが多かったが、最近「宝満山ヒキガエルを守る会」によって、小さなカエルを踏まないようにとのポスターが貼られたので、以前に比べて安全



に登れるようになりました。

2合目までの登山道の両側の土手には、他の生き物(たぶん昆虫)が作った小さな穴がたくさんあいている。天気が悪い日(人にとっては良い)が続くような場合はこの穴の中に避難しましょう。

穴の直径は1cm位のものがあるが、ほとんど5mm位である。また深さは3cmくらいであるが、中には1cmもないもの、5cmもあるものがある。ほぼ一つの穴に一匹と考えた方が良さそうです。二匹入れないと体の半分が穴から飛び出し、乾燥を防ぐ効果はないので、他の穴を探した方が良い。



または、落葉の下、草むらの中の湿った場所に避難しましょう。

登山道と林道の出合い あと山頂まで2kmのポスト

ここは最初の難所で、幅3.5mの林道を横切ることになり、時々自動車が通るので、轢かれないように素早く横断すること。

林道を横切ったとしても林道沿いに側溝があり、登山道を真っすぐ行けば、側溝に蓋(幅はわずか90cm)があるので、この蓋の上を行くのが良い。しかし地面からは見えにくいので、側溝に落ちることが多い。

側溝は深さ30cm幅30cm(TS:26m)である。この側壁は垂直であるが、コケがついている所があるので、それを伝ってクライミングすれば良い。もし落ちた場合は登れそうなルートを探せば良い。最近はやさしい人間が落葉や石、土のうなどで側溝を脱出できるような足がかりを何カ所か作ってくれているので、側溝内を10~20mも移動すれば足がかりを見つけることができる。

2合目より少し上

以前は、蟻の行列が登山道を横切っていたが、行列はなくなったので、安全に通過可能となった。

3合目

水が好きなヤマカガシがここに住みついています。ここを通る時は気を付けましょう。**ヤマカガシは登山道のどこにでもいます。**登山道で見られる谷川は宝満川―筑後川を通じて有明海にそそぐ水源の一つです。

(注:ヒキガエルの両眼の後ろには毒液を分泌する耳腺があります。ヤマカガシはヒキガエルの毒に耐性があるようで大好物です。ヤマカガシの毒は、ヒキガエルの毒

を貯蓄して利用しているようです。

4合目より上の薬箱

2017年3月にいわゆる「薬箱」の所に新しい橋ができました。新橋を登る登山者は以前の旧橋を通る登山者より多く、カエルの匂いの道が登山者の靴によって作られるので、今後、新橋を通るカエルの数が増加すると思われます。

現在のところ、カエルは旧橋の上の木道を渡らずに、橋の下を通過して登っていきます。

5合目直前の狭い登山道

登山道の幅が1m位の場所があります。ここでは、ヤブの中からいきなりヤマカガシが出てきて襲ってきます。登山道の幅が広い所でも、あまり端の方を通らない方が良いでしょう。



5合目

5合目には「殺生禁断の碑」があります。これは仏教の精神からこれより上では鳥、獣、魚などの狩猟を禁ずるという意味で、足元の子ガエルにも注意を向けて欲しいと思います。

いわゆる展望台

この碑から少し登ると、展望が開けて福岡市が見える場所があります。人にとってはここまでの木陰の中の登山道から急に開けるので立ち止まる場所ですが、日当たりも良く、乾燥しやすいので風景に見とれないで、素早く通り抜けましょう。



百段がんぎ

この付近では子ガエルを励ますため親ガエルが時々、出迎えています。

写真の逆三角形の形の石をゼロ段として数えるとちょうど百段になります。



7合目

これから上に向かう階段の右手に井戸（閼伽の井）がありますが、ここにもヤマカガシがいます。

8合目

正面に階段が見えます。登山道は右に折れて行きます。正面に向かうと、かなりの急傾斜の岩場があります。

山頂直下

ここは マラソンのゴール寸前のように たくさんの登山者（人）が注目する場所で、さっそうと登頂すれば登山者（人）から拍手、感嘆の言葉がもらえます。

ベストなコースは階段（17段）の両側に幅25cmのスロープがあり、特に右側を通るのが良いでしょう。階段の右側には垂直の4mの壁がありますが、ここはやめた方が良いでしょう。途中で落下することになります。垂直壁の右側の石垣を登っても良いが、登山者からの感嘆の声は聴けないので、恥ずかしがりや（クライマーの性格）向きです。

山頂の上宮前の広場に達したあと、お参りを済ましたら、速やかに草むらに入った方が良いでしょう。何故なら、登山者（人）は疲れ切ってやっと山頂にたどり着いた人もいるので、足元の小さな子ガエルまで注意するゆとりもないことがあり、大変危険です。

また、最後の階段を上ると、目の前に高さ4mくらいの巨岩（肇社と彫られている礼拝石）が見えますが、これを登っても頂上より先がなく、また草むらもないので結局は降りてくることになります。

山頂から仏頂山（人の足で10分くらい）に向かうこともできますが、このためにはせっかく登ったのに石段や鎖場を降りる必要があります。余力がありすぎる場合はどうぞ。

2021年には仏頂山に向かう子ガエルが目撃されて、仏頂山山頂でも目撃されている。



(付録) ヒキガエルから学ぶ登山者(人)の登山技術

付(1) ソロ登山の危険性

上陸した子ガエルのほとんどが宝満山山頂に向かったり、近くのヤブの中に永住の場所を見つけたであろう頃に、下の池や上の池付近の登山道の子ガエルが一匹で山頂方向に向かっていると、小さなアリが執拗に波状的に襲ってきたのが目撃されました。

子ガエルが大群で歩いているときは、アリは近寄ってこない。安全のためには、ソロ登山は避けた方がよい。一人で登るよりも早々に近くのヤブの中に入った方がよい。もっともここが安全と限らないが――。

付(2) 携行食(または行動食、携帯食)について

昼間は、子ガエルは休憩することなく、険しい石段を登ったりする。この時、歩きながらも食べられる携行食を持参することが大切であるが、いたるところにダニ、アブラムシや小動物がいるので、見つけたら歩くのをやめて食べましょう。長い舌を使うだけで食べれるので、要する時間は数秒である。登山途中の子ガエルを見ると、随分大きく成長し、山頂に達したころは生まれたばかりのころより2倍くらいに大きくなっている。

登山途中で大きさが随分異なる子ガエルがいるが、餌の取り方の上手下手によるかもしれない。

人の場合はようかん、アメ、果物などを携帯しているようである。

生まれたばかりの子ガエルは、アリの攻撃を受けるが、成長して1歳になると体はアリより大きくなり、逆にアリを食べることができるようになる。

注：登山中の子ガエルを見ていると、急に何かを見つけてそちらに顔を向けることがあります。それは長い舌を出して餌を食べる時です。動きが早いので注意して見ましょう。

付(3) 三点支持(三点確保)

山頂までには、ほとんど垂直の壁面やコケの面があり、このような場所を通過するときは、大切な技術が必要となる。手足の4点が岩やコケをしっかりつかまえた(確保した)状態から、登るために、どこか1点だけを動かし(残りの3点は動かさない)て、しっかり岩やコケ



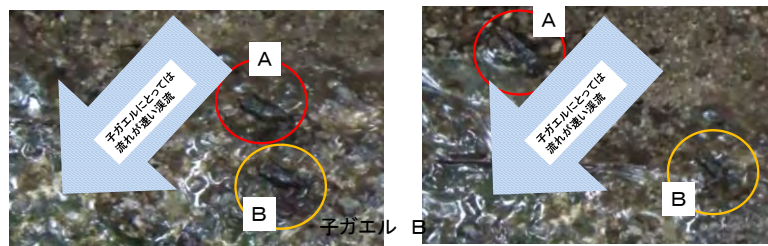
手足のうち 一つだけ動かしている
証拠写真

をつかまえる。そして、手足の4点で体を支える。次に手足の内の一つだけ動かす。他の3点はそのままにして動かさない。これを繰り返しながら登っていく技術です。人から見られたり、慌てたりして確保しないまま手足を動かしたり、同時に2点を動かすと落下することになる。

注：登山中の子ガエルの細かい動きをじっと見つめてみましょう。食事シーンと同じように、動画を撮ってじっくり見るのも良いでしょう。新しい発見があります。

付(4) 渡渉の方法

大雨が降った場合、登山道に水道(みずみち)ができる。幅20cm、深さ5mm位であっても、流れが急であれば、渡渉中に流される危険性がある。このような場所では 先行する子ガエルが安全にわたるのを目視で確認したうえで、順番にわたること、くれぐれも一斉に川の中に飛びこまないようにすべきである。



実は、子ガエルA、Bは先行する子ガエルが無事に渡るか見ている

子ガエルAが無事に渡ったのを見て、この後子ガエルBは渡り始める

付(5) 熱中症予防の基本

2021年の6月末に人の足であれば、山頂まで数分もかからない場所まで到達していたが、子ガエルにとっては雨が降らずに乾燥した悪天が続いたために、その場所に何日も停滞し、登頂を目撃したい人をやきもきさせたようである。

しかし、我々(子ガエル)は人と違って、あと少しなので頑張って登ろうとは考えない。あくまで安全第一であり、くれぐれも 無理しないことである。